

スフィア・プロジェクトにおける最低基準

《給水、衛生、衛生促進に関する最低基準》

1. 基本的衛生用品リスト

(p87 2. 衛生促進)

	最低基準
10～20 リットルの水を持ち運ぶための容器	家庭毎に1つ
10～20 リットルの水を貯蔵するための容器	家庭毎に1つ
入浴用石鹸 250 グラム	毎月1人当たり1つ
洗濯用石鹸 200 グラム	毎月1人当たり1つ
許容範囲内の衛生生理用品（例：洗濯可能な綿布）	1人1つ

2. 生存に必要な基本的な水の量

(p90 3. 給水)

	摂取量	
生存に必要な水:水の摂取量 (飲料および食物)	2.5～3L/日	気候、生理的個人差による
基本的な衛生上の行動	2～6L/日	社会的・文化的規範による
基本的な調理ニーズ	3～6L/日	食物の種類、社会的・文化的規範による
基本的な水のニーズ総計	7.5～15L/日	

3. 水源1つあたりの最大利用者数

(p91 3. 給水)

水源1つあたりの最大利用者数	基準流出量
W 蛇口1つあたり 250 人	基準流出量：毎分 7.5 リットル
手動ポンプ1台あたり 500 人	基準流出量：毎分 17 リットル
1人用開放井戸1基あたり 400 人	基準流出量：毎分 12.5 リットル

4. 施設その他で使用する最低水量

(p120 付記2 施設その他で使用する最低水量)

施設	使用する最低水量
保健施設・病院	外来患者 1 人あたり 5 リットル 入院患者 1 人 1 日 40～60 リットル 洗濯機、水洗トイレなどのためにさらに追加が必要な場合もある
コレラセンター	患者 1 人 1 日 60 リットル 支援者 1 人 1 日 15 リットル
食事療法センター	入院患者 1 人 1 日 30 リットル 支援者 1 人 1 日 15 リットル
受入/一時滞在センター	1 日以上いる場合、1 人 1 日 15 リットル 日中に限られる場合、1 人 1 日 3 リットル
学校	飲料および手洗い用: 生徒 1 人 1 日 3 リットル (トイレ用は含まない: 下記「公衆トイレ」参照)
モスク	手洗い用・飲料用 1 人 1 日 2～5 リットル
公衆トイレ	手洗用 1 人 1 日 1～2 リットル トイレ洗浄用 1 個室 1 日 2～8 リットル
水洗トイレ	下水道と連結した従来型水洗トイレ用 1 人 1 日 20～40 リットル 注水式水洗トイレ 1 人 1 日 3～5 リットル
肛門清拭	1 人 1 日 1～2 リットル
家畜	大中型家畜 1 頭 1 日 20～30 リットル 小型家畜 1 匹 1 日 5 リットル

5. 被災状況下での公共の場所および施設における最低トイレ数

(p121 付記3 被災状況下での公共の場所および施設における最低トイレ数)

機関	短期	長期
市場	露店 50 につき 1 基	露店 20 につき 1 基
病院・医療センター	ベッド数 20 床 または外来患者 50 人につき 1 基	ベッド数 10 床 または外来患者 20 人につき 1 基
給食センター	大人 50 人につき 1 基 子ども 20 人につき 1 基	大人 20 人につき 1 基 子ども 10 人につき 1 基
受入/一時滞在センター	50 人につき 1 基 女性対男性の割合は 3 : 1	
学校	女子 30 人につき 1 基 男子 60 人につき 1 基	女子 30 人につき 1 基 男子 60 人につき 1 基
事務所		スタッフ 20 人につき 1 基

出典 : Harvey, Baghri and Reed(2002)より改訂

《保健活動に関する最低基準》

6. 各種災害の公衆衛生への影響

(p272 災害時における保健サービスの重要性)

注 : 以下に記した種類の災害であっても罹患と脂肪のパターンは状況によって大きく異なる。

影響	複合緊急事態	地震	強風 (洪水を伴わない)	洪水	鉄砲水/津波
死亡	多い	多い	少ない	少ない	多い
重症	状況による	多い	中程度	少ない	少ない
感染症のリスクの増加	高い	状況による ※	低い	状況による※	状況による※
食糧不足	一般的	まれ	まれ	状況による	一般的
大規模な人口移動	一般的	まれ(大きく損害を被った都市部では起こりうる)	まれ(大きく損害を被った都市部では起こりうる)	一般的	状況による

※災害後の移動および集団の生活状況による。

出所 : 全米保健機構、2000 年より作成